

東海道五拾参次

橋 本 たねひろ

17、興津（おきつ）一興津川 駿河国・静岡県静岡市清水区

峠を下ると東海道は興津川に出るが、冬以外には仮橋がないので、川越人足に頼ることになります。興津宿に向かう力士二人を乗せて山駕籠と駄賃馬が渡っていますが、駕籠の力士は大きな体を縮め、水面が迫る様子に心配そう、馬上の力士は満足げに川辺の奇岩を眺めています。

力士の重さに苦しそうな馬を馬子が励ましている、背景は清見潟と呼ばれる浜辺に松がまばらに生え、駿河湾に白い帆が浮かんでいます。由井を出てもう少しで興津宿、9.2 kmの行程です。



18、江尻一三保遠望 駿河国・静岡県静岡市清水区



近景に廻船で賑わう清水湊、中景に駿河湾に突出した三保半島、遠景に対岸の山並み（左から愛鷹山、箱根、沼津の鷲頭山）と白い帆を配しています。

三保の松原と富士山を望む白砂青松の景勝地として、また羽衣伝説でも有名です。シリーズ中人物が全く描かれていない唯一の作品で、また、江尻では富士山を描くのが定番なのに富士がないことでも知られていますが、後の作品では富士を入れています。興津から江尻まで4.1 kmです。

19、府中一阿部川 駿河国・静岡県静岡市葵区

府中宿は徳川家康が駿府城を築き晩年を過ごした地で、江尻から10.6 km、宿場を出立して阿部川にぶつかります。川の畔の茶店では名物安倍川餅が売られていますが画面にはありません。

若い女が平鞆台に駕籠ごと乗り、母親らしい女が平鞆台に、肩車の男女はお供でしょうか。対岸からは荷駄馬や飛脚が徒渡りして来ており、中央の山は徳願寺山かと思われます。



20、丸子（まりこ、鞠子）一名物茶店 駿河国・静岡県静岡市駿河区



宇津ノ谷峠の東口にある丸子宿は、とろろ汁が有名で、絵の茶店でも「名ぶつとろろ汁」の看板が立てかけられ、「御茶漬」「御さかな」と書かれています。側に梅の木が生え、店内の客はとろろ汁を掻き込み、もう一人は酒を飲んでおり、女将さんがとろろ汁を出している、一人の旅人は出立したところでしょうか。

府中から丸子まで5.7 kmの行程です。